資料４－１

地球温暖化に対応した北海道農産協会・北海道農産基金協会の取り組み　（令和8年5月）

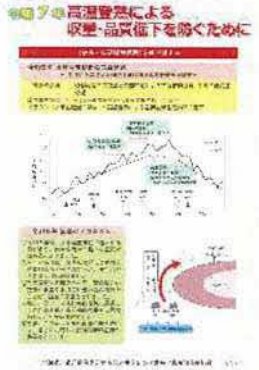
北海道農産協会

品目	取組内容	備考
水稲	1　良質米安定生産技術講習会（全道7カ所） ＜内容＞ ・令和7年産　水稲の生育経過と今後の課題 ・育苗期間中の適切な高温対策による早期異常出穂の抑制 ・登熟期機関中の高温条件に対応した水管理技術について ・温度条件に応じた病害虫防除の適正防除について 2　普及啓発資材の配布 ・令和8年産に向けての米づくり ・農産協会だより（26号）　～　「令和7年産米の全道統括」 ・水稲リーフレット「令和８年 高温登熟による収量・品質低下を防ぐために」 ・水稲リーフレット「令和８年 水田水管理のポイント」（「気象変化への的確な対応策」追加）	
小麦	1　良質小麦安定生産技術講習会（全道8カ所） ＜内容＞ ・令和7年産　小麦の生育経過と今後の課題 ・越冬前の高温傾向に対応したは種時期、は種量の設定について ・登熟期の温度条件に応じた、「赤さび病」等の病害虫防除対策について 2　普及啓発資材の配布 ・北海道の小麦づくり（令和7年） ・秋まき小麦・春まき小麦の病害虫と防除対策 ・小麦の適正収穫にむけて　ー低アミロ小麦、絶対ダメー ・令和7年産小麦の作柄を振り返る～各地域における最大収量を目指して～ ・農産協会だより（24号）　～　「秋まき小麦のは種前に確認してほしい安定生産のポイント」 （26号）　～　「令和7年産　小麦の総括」	
米麦共通	・米麦共励会表彰式　～　生産優良事例の発表（江別市畑作生産部会、泉田和昭氏、吉川尚亨氏）	
てん菜	1　てん菜づくり講習会 （2月5日　出席者（現地参加104名、オンライン参加122名、2月19日から動画配信） ・令和7年産てん菜の生育経過と今後の留意事項（温暖化条件下でのてん菜栽培） ・近年のてん菜病害虫について 2　普及啓発資材の配布　～　てん菜だより(15号)「令和7年産てん菜の生産実績とその要因について」 3　委託試験～多発及び耐性菌の発生に対応したテンサイ褐斑病の省力防除技術の開発(委託先：道総研)	

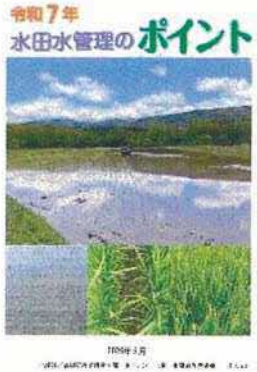
北海道農産基金協会

品目	取組内容	備考
小豆・菜豆	1.豆類調査研究助成事業（６課題中温暖化関連） ○　小豆の開花期高温抵抗性評価法の検討　R6～7（十勝農業試験場） ○　作物モデルを用いた小豆および菜豆の作期の推定　R5～7（十勝農業試験場） 2.北海道農産基金協会協賛事業 （1）令和7年　豆作り講習会（2/13美幌、2/14士幌、2/26旭川、2/27美唄）日本豆類協会 ・令和６年産　小豆・菜豆類の生育経過と今後の課題 ・適期は種による生育の安定化 ・豆類の品位確保のための収穫手法について （2）普及啓発資材の配布　～　明日の豆作りテキスト（令和6年2月）　日本豆類協会	
でん粉原料用馬鈴しょ	1.生産流通振興事業（14課題中） ○でん粉原料用馬鈴しょにおける高品質でん粉系統の効率的な選抜と開発強化（北見農業試験場） ○気象情報に基づいたアブラムシ飛来数の即時予測手法の開発と簡便なPVY検出手法の確立（北農研センター） 2.第３1回馬鈴しょ及びでん粉講習会（現地開催＋講習内容WEB配信） ・馬鈴しょでん粉の情勢 ・でん粉用原料用馬鈴しょにおける高品質でん粉系統の選抜強化 ・近年の気象が澱原馬鈴しょ「コナヒメ」の収量･でん粉価に及ぼす影響を解析(生産者優良事例) ・斜網地区の馬鈴しょ栽培技術について(斜里町秋の川地区における事例紹介～「コナヒメ」安定確収技術確立に向けた取組(生産者優良事例) 3.関係機関等が基礎資料として活用のための冊子配布～北海道における馬鈴しょの概況 4.北海道産でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会　　＜事務局　ホクレン＞（基金協会 協賛） （1）内容　令和6年産でのでん粉原料用馬鈴しょの生産の優良事例を収集し、表彰するとともに安定生産技術を全道への普及を進めている。 （2）普及啓発資材の配布　～　令和6年度でん粉原料用馬鈴しょ優良事例集	

【リーフレット】

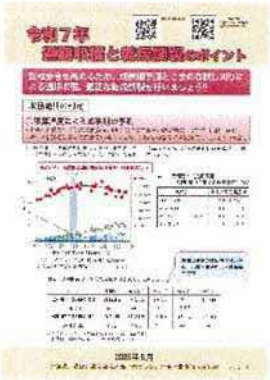


No.１　2025年4月発行
高温登熟による
収量・品質低下を防ぐために
（４ページ）



No.２　2025年5月発行
令和7年度
水田水管理のポイント
（４ページ）

No.３　2025年6月発行
令和7年度
水稲病害虫の防除対策
（４ページ）



No.４　2025年8月発行
令和7年度　適期収穫と
乾燥調製のポイント
（４ページ）

No.５　2025.8発行
令和7年度　水稲収穫後の
ほ場管理のポイント
（４ページ）

2026.3発行
令和8年
水稲播種・育苗のポイント
（８ページ）

No.６　2026.3発行
令和8年
水稲省力化栽培のポイント
（６ページ）

【冊子】

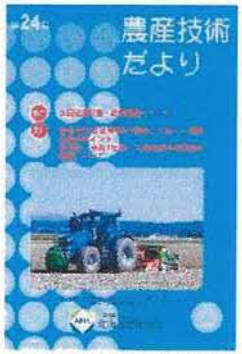
2026年2月発行
「ゆめぴりかの巨匠」7名による
良質米生産のノウハウ集

2026年2月発行
令和8年産に向けての
米づくり
（各地区講習会資料）

2026年3月発行
第63回北海道優良米生産出荷共
励会へ出展した優良事例集（全
水稲生産者へ配付）

【農産技術だより】

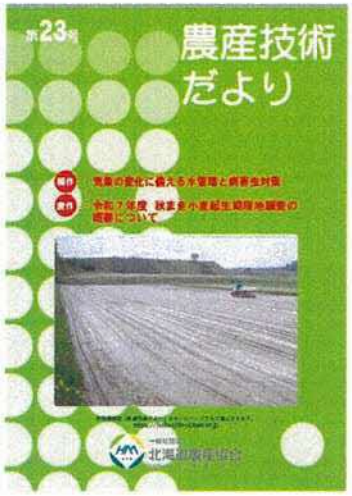
春号　2025年5月発行
気象の変化に備える
水管理と病害虫対策



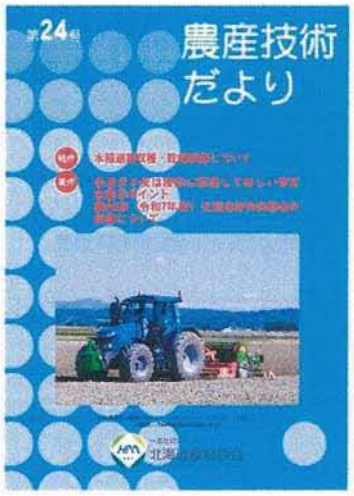
夏号　2025年8月発行
水稲適期収穫・乾燥調製

秋号　2025年9月発行
収穫後並びに融雪後の
ほ場管理

冬号　2026年3月発行
米の全道統括
米穀府県流通調査研修報告
優良米共励会審査結果



農産技術だより第 23 号



農産技術だより第 24 号

農産技術だより第 25 号

農産技術だより第 26 号

リーフレットNo.1

リーフレットNo.2

リーフレットNo.3

北海道の小麦づくり

優良事例集

リーフレット

小麦づくり

優良事例集

研究課題名：多発及び耐性菌の発生に対応したテンサイ褐斑病の省力的防除技術の開発（R7~9）

北見農試生産技術G
中央農試病害虫G
十勝農試生産技術G

研究の目的

適切な散布終了時期を検討、早期散布による防除効果を検討するとともに、新規薬剤の探索を含めた、マンゼブ剤以外の薬剤の防除効果を確認し、これらに基づいて、テンサイ褐斑病の多発条件下において、糖量への影響を最小限にした省力的な防除方法を提案する。

研究内容

1）抵抗性強品種における適切な散布終了時期の検討（R7～9年度）

ねらい：抵抗性強品種における収量、糖分への影響が最小限である適切な散布終了時期を確認する。発病度と糖量の関係を解析する。

2）初発確認を必要としない早期散布による防除効果の検討（R7～9年度）

ねらい：平年初発期（7月上旬）よりも早くに防除を開始し、初発時期によらない防除方法を検討する。

3）新規薬剤およびマンゼブ剤以外の薬剤の防除効果の確認（R7～9年度）

ねらい： てんさい褐斑病に効果のある新規薬剤を探索するとともに、マンゼブ剤の混合剤を含めた新規登録薬剤、マンゼブ剤以外の薬剤の防除効果を確認する。

目指す成果

高温傾向により長期化する懸念のあるテンサイ褐斑病の発生時期を通して、マンゼブ剤以外の有効薬剤も活用しながら、糖量への影響を最小限にした省力的な防除体系を提案、持続可能なてんさい生産に寄与する。

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">6月</td><td colspan="3">7月</td><td colspan="3">8月</td><td colspan="2">9月</td></tr>
<tr><td></td><td>下旬</td><td>上旬</td><td>中旬</td><td>下旬</td><td>上旬</td><td>中旬</td><td>下旬</td><td>上旬</td><td>中旬</td></tr>
<tr><td>現状の
防除体系</td><td colspan="9">●―●―●―●―●―○―○
初発直後から防除開始
マンゼブ400倍を10～14日間隔散布、5回を超えるため銅剤等を散布</td></tr>
<tr><td>提案する
防除体系</td><td colspan="2">初発によらない
防除 ○―</td><td colspan="5">マンゼブ剤と他薬剤を組み合わせた防除
●―●―○―●―●</td><td colspan="2">後半の防除は
不要</td></tr>
</table>

●マンゼブ、○その他